

## 新旧支部長ご挨拶

前支部長 加藤徹三さん



平成20年5月の総会で、前支部長川口さんと交代で支部長を引き継ぎ、今年の5月まで勤めました。勤めたとは言っても、支部便りの発行と総会で議長席に座ってるだけの何もしない支部長で、それぞれの役割分担を担った幹事諸士に丸投げという、無責任な支部長ではありました。感謝の極みです。

その間、高橋末吉さんと岡直勝さんをお送りし、新入会員として、長岡栄一さん、横尾正勝さん、菊池武志さん、涌井進さん、鹿野倫司さん、田中宏行さん、佐藤賢一さん、美馬五郎さん、越智俊英さんを迎えました。24年度、美馬新支部長のもとでは、阿部靖さん、田中栄さん、長谷川昌彦さんの3名を加え、会が一気に若返って、頼もしい限りです。アクセルをいっぱい踏んで下さい。

総会のアトラクションは、星さんのご尽力で素晴らしいの連続でした。平成20年のみつわ会創立50周年祝賀会を兼ねた総会では、張利霊（チャンリリン）さんが美しいモンゴルの民謡を、21年度にはゲレルソプトさんが同じくモンゴルの草原を彷彿させる美声を披露、22年度は万年亭床輔さんの落語というチョット変わった趣向があり、23年度はアイリッシュハーブの3人による「故郷」で涙を浮かべました。過ぎてみれば瞬く間の4年間でしたが、その間に大震災があり、中身の濃い忘れることが出来ない年月でした。これからも行事にはもれなく参加して老人道(?)を邁進したいと思います。

4年間本当にありがとうございました。

新支部長 美馬五郎さん



東北支部が23年度は困難としても、24年度には支部長・副支部長三役は交代して、活動を若手に委譲していくということが既定の路線であるという状況のなかで、昨年私はまさに、「鴨が葱を背負ってくる」の喩えのとおり、みつわ会に入会してしまったのです。

会での経験は二の次として、次世代の団塊世代以降への橋渡し役という位置付けで私が支部長職に推挙され、やむなく就任に至った次第です。

過日、会員の斉藤謙二さん（83歳）の訃報に接し、会としての弔事を進めるなかで、加藤前支部長、星顧問、佐藤稔さん達の根回しや助言によって会での私の初仕事は何とか熟すことができました。

<次頁へ>

会社を離れて20数年も経った故人のお葬式に9名の会員が列席して、日新火災からも生花が供花されました。星顧問が弔辞を述べました。遺族の挨拶では、故人が嬉々としてみつわ会の行事に参加していた様子が語られていました。東北支部が発足して37年余経過した今、先輩の方々の活動の歴史と、日新火災を介しての家族的な会の繋がりを今回、葬儀に臨席して一層強く感じました。会の存在の重み、会員の皆様からの会への期待感を 支部長に就いた今、感じることは大ですが、私にとって、如何せん経験、力量不足は否めません。会の運営にあたっては皆様のご協力を頂きまして、そのうえで、自分の出来ることを一つ一つ積み重ねていくことが、皆様の期待に副うことにつながるのではと思っています。大きなことはできませんが、ちいさな成果が残せればと念じています。 今後とも宜しくお祈りいたします。

### 6月14日幹事会・・・報告

- ① 「24年度総会」の収支報告と今後の一般会計の収支概算見込みを検討。
- ② 慶弔関連 <慶事>本年度は 橋本謙忠さんが長寿祝贈呈(米寿)に該当。  
<弔事>支部会員の訃報に接した際の香典・供花の手配、会員への連絡など一連の弔事の取組みについて、遺漏がないようにするために、会社との相互連絡、相互役割について再確認しておくことが重要であると、別日に会社(久保田推進役)と打合せをおこなった。
- ③ 役員(三役、幹事)の各々の役割分担について確認をおこなった。
- ④ 年間活動スケジュールを確認。行事については「参加してもらえぬ行事」の企画を今後構築していく。以上、新体制の発足に伴って、年間の主要課題について論議して、諸課題についての確認を行った。

### 訃報

去る 5月30日 齊藤 謙二様(83歳)がご逝去されました。  
心からお悔み申し上げますと共にご冥福をお祈りいたします。

### ー7月の行事ー

	支部	みちのく損保
7月12日(木)	幹事会 4時コーナー	
7月14日(土)		麻雀大会
7月15日(日)		楽天観戦ツアー
7月26日(木)	昼食会 12時 「しゃぶ禅」	

(昼食会) 出席の連絡は7月20日(金) までに佐藤賢一さんまで  
佐藤さんの連絡先は支部便り6月号に掲載済みです。